

兵庫県
保険医協会

西宮 支部 ニュース 芦屋

No. 347

2019・4・25

〒662-0832

発行 兵庫県保険医協会 西宮・芦屋支部
西宮市甲風園一―一五 法貴皮膚科内
連絡先 兵庫県保険医協会
電話〇七八(三九三) 一八〇三

保険請求事務講習会 (医科)

基礎のおさらいからレセプト作成の実践まで

4人の講師が請求の仕組みを分かりやすく解説

西宮・芦屋支部は2月23日・24日の2日間、芦屋公民館講義室(芦屋市民センター別館)で協会研究部主催の「初心者のための保険請求事務講習会(医科)」を開催。1日目は岩下敬正先生(西宮市・岩下内科クリニック)と中島敏雄先生(西宮市・中島クリニック)、2日目は川崎史寛先生(西宮市・川崎医院)と、佐々木一郎先生(西宮市・夙川さきクリニック)が講師を務め、医師・事務スタッフら26人が参加した。



1日目の講師を務めた岩下先生(左)と中島先生(右)



2日目の講師を務めた川崎先生(左)と佐々木先生(右)

講習会では、1日目に協会発行テキスト『保険請求の要点(2018年版)』を使用し、窓口業務での注意点や頻用点数の仕組みなど、保険請求事務の基礎知識部分をおさらい。2日目は、協会作成のオリジナル問題集を使い、医師が作成したカルテの2号用紙を見て、そこから3号用紙とレセプトを手書きで作成するまでの作業に取り組んだ。

講師は自らの経験なども交えながら、請求の基本から実践までをそれぞれ分かりやすく解説。参加者からは次のような感想が寄せられ、好評を得た。

〈参加者の声〉
・疑問に思ったことをわかりやすく解説していただけてよい機会になりました。

・基本をわかりやすく教えていただき、疑問も少しすっきりしました。
・便覧を見てもなかなか理解しにくかったが、先生のお話とテキストで調べ方など分かりました。
・保険請求などの大まかな流れがやっと少し理解できたような気がします。
・なるほどと思うことが多かった。電子カルテでは見えない部分があったのが良かった。
・2日間とも有意義な時間をすごすことが

できました。とても分かりやすかったです。
・点数の計算は初めてだったので、難しかったですが勉強になりました。今後はもっと注意して見ていこうと思います。
・レセプトの修正が少なくなるように、請求間違いには気をつけていきたいと思いました。
・お話がわかりやすかったです。普段パソコンでポンポンと押すだけで、内容を何もわかっていなかったということがよくわかりました。

二胡の調べと交流会

二胡の美しく多彩な演奏に聞き入った

西宮・芦屋支部は3月30日、シティハイッ西宮北口で開催された「西宮UR借り上げ公営住宅入居者を励まし支援する会」主

催の「二胡の調べと交流会」に共催。二胡演奏者の劉揚氏を演者に招き、シティハイッ西宮北口の住民や地域の市民など29人が



二胡の演奏をする劉揚さん



市民の支援を訴える阪田氏

参加・交流した。

劉氏は、中国の弦楽器「二胡」で、日本の春の歌「さくらさくら」「春よ来い」や、クラシック音楽のシューベルト「セレナーデ」、李香蘭の「蘇州夜曲」など、多彩な曲を披露。参加者は二胡の美しい音色に聞き入った。

コンサートの後は、「支援する会」代表の阪田征史氏が、西宮市から退去を求められている借り上げ復興住宅の追い出し問題について、現在の状況や今後の展望等について報告し、参加者へ今後の活動へのさらなる支援を訴えた。

シティハイッ西宮北口では、借り上げ復興住宅の住民同士の交流、および近隣の市民に借り上げ復興住宅の追い出し問題について幅広く知ってもらい、忌憚のない意見を交流する場として定期的にコンサートや健康カフェなどを開催しており、今回が6回目となる。

第11回被災地交流／物産・物品展

多くの人が訪れ被災地と交流深める

西宮・芦屋支部は2月23日、広川内科クリニックで第11回被災地交流／物産・物品展を開催。地域住民や患者などが参加・交流した。

この企画は東日本大震災と熊本地震被災地への支援と地域交流を目的に定期的に開催しており、今回で11回目。岩手県宮古市「かけあしの会」が、わかめやサバ缶など東北の物産を販売したほか、蒸し牡蠣・

赤皿貝の焼き物・甘酒などの実演販売を行った。また、熊本県南阿蘇村の低農薬野菜、岩手県藤沢「ちくちく工房」のバック、宮城県仙沼復興住宅からの手作り手籠なども販売した。

寒さの残る中、蒸し牡蠣などの磯の香りに包まれた会場には多くの地域住民や患者が訪れ、交流を深めあいながら、思い思いに買い物を楽しみ、大いににぎわった。



地域住民らが交流を深めあいながら、思い思いに買い物を楽しんだ

世話人会だより

西宮・芦屋支部は2月22日(金)に西宮医療会館で世話人会を開催。3人が参加した。

【予定・企画】

- ① 第11回被災地交流／物産・物品展 (2・23)
 - ② 保険請求事務講習会 (芦屋会場) (2・23)
 - ③ 健康と医療について語り合う会 (3・15)
 - ④ シティハイツ西宮北口「二胡の調べと交流会」 (3・30)
 - ⑤ 支部お花見会 (3・30)
 - ⑥ 第36回漢方研究会 (6・15)
 - ⑦ 第39回支部総会記念市民公開講演会 (7・20)
- 【予定・企画 (日時未確定)】
- ① プライマリケア研究会
- 【協会・保団連行事】
- ① 第35回地域医療を考える懇談会 (神戸北 (3・23))
 - ② 第95回評議員会 (5・19)

*世話人会の日程は毎月第4金曜日です。支部についてのご意見や企画案などをお寄せください。

第36回漢方研究会 「こころと漢方～ベンゾジアゼピンに頼らない医療を目指して」

日時 6月15日(土) 午後5時～6時30分
 会場 スペースアルファ三宮I
 (神戸市中央区三宮町1-9-1 三宮センタープラザ東館6階)
 講師 奈良県生駒市・岡クリニック 岡留美子先生
 司会 西宮市・ユニコの森 村上こどもクリニック 村上博先生
 参加費 無料

漢方は精神科治療になじみがよい。漢方は心身一如の医学であり、身体の治療も心の治療も分けて考えることはしない。つまり、漢方は心の治療を内包するものであるといえる。

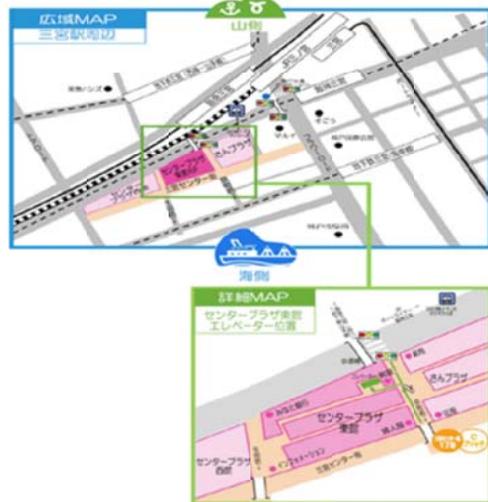
精神科臨床において、漢方薬を活用することには多くの意義があるが、精神科薬物の減量に資するものである点は大いに注目できると筆者は考える。ベンゾジアゼピン系薬物(以下ベンゾ)は長期連用による依存性の問題が注目されており、使用に制限が欠けられるようになったが、その減量、中止に苦慮することも多い。

この問題に対処するためには、ベンゾを使わずに漢方薬を使用する、あるいは漢方薬に置換していくという手法が有用である。

しかし、それがうまくいかないという声も聞く。では、漢方を使いベンゾを終了できるため何が有効か。治療関係の中で生まれる期待が果たす役割が大きいと演者は考える。

具体的処方と症例をもとに、この問題を考えていきたい。

(岡留美子 記)



※上記企画についてのお申し込み・お問合せは、
 協会事務局 TEL. 078-393-1840 FAX. 078-393-1820
 E-Mail. yamada-t@doc-net.or.jp (山田・沖野・岡林) まで